



ZENFUREN

2014年10月3・4日

号外

全国国立大学附属学校連盟
全国国立大学附属学校 PTA 連合会
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29
虎ノ門産業ビル 8F
TEL : 03-3591-2091
FAX : 03-3591-2092

全附P連PTA研修会 第5回全国大会

基調講演-①

親だからできる「こころ」の子育て

教育評論家・法政大学教職課程センター長・教授 尾木直樹氏

心の教育に重要なことは、責めるのではなく“向き合う”こと、聴くこと、そして、“心で受け止める”こと



尾木ママの絶妙なトークに、歓声と笑顔がいっぱいの講演になりました。

1日目 13:00 からの全体会に引き続き、センチュリールームで基調講演1が行われました。今年の講師は、テレビでおなじみの尾木直樹先生です。会場の後方から中央通路を参加者とハイタッチしながら入場し、満面の笑みで華々しく登壇されました。

自己紹介の中で、性の種類は男女の2極ではなく無限にあり、高校では20人に1人ぐらいの割合で男女ではなくその他と答える人がいて、この生徒たちは不登校になりがちのお話がありました。セクシャルマイノリティに対する対応も、心の問題として取り組む必要があるようです。

心の問題の中でもいじめは大きな問題です。中学生へのアンケートでは、約8割の生徒がいじめる側にもいじめられる側にもなった経験があるそうです。いじめられた子へのカウンセリングも重要ですが、いじめる側への心の教育の方がさらに重要です。いじめは基本的にはなくならないものだと思います。しかし、人を大事にしている家庭の子は、問題が起きてもその日のうちに解決できることが多いようです。子どもが愛されているということが大切で、父母の条件付きの愛、祖父母の無条件の愛、近所の方々の斜めの愛など、多

様な愛が重要だと熱く語られました。

最近の脳科学の発達からいろんなことがわかってきたようです。4歳ぐらいで記憶が消去されること、12歳から22歳ぐらいで脳が大改造されるティーンズ脳のこと、抱き癖がつくというのも間違いであることなど、脳科学的な成果を踏まえた教育や子育てを考えることが重要です。アメリカの実験では、ほめる教育を実践したクラスは20%成績がアップしたという成果もあるそうです。

乳幼児期には“基本的信頼感”を2歳までに実感させることが重要です。子どもが失敗した時は、深く掘り下げないこと、そして、共感をすることが、心を元気にする秘訣です。

これを実践するための会話パターンを教えてくださいました。子どもをしかる前に、まず「どうしたの」と聴き、そして子どもに寄り添って共感し、「そりゃたいへんだったね」とあいづちをうつのです。この会話パターンで、子どもとの関係だけでなく、学校の先生とも良好な人間関係を築くことができるという話も興味深かったです。

“心の教育は責めるのではなく、向き合うこと、聴くこと、そして心で受け止めること”これが講演のまとめに語られたメッセージです。これを心に刻み、会話パターンを実践し、今以上に考えながら家庭内コミュニケーションをとっていきたいと思いました。



香川大学教育学部附属坂出小学校
PTA 神余智夫 取材